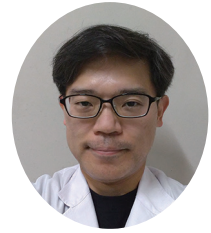


日本肝炎デーに因んで。 「どうする沖縄の肝疾患」



琉球大学病院 第一内科 新垣 伸吾

<はじめに>

毎年7月28日は『日本肝炎デー』です。国や自治体、医療機関が協力し、肝炎の病態や知識、予防、治療に係る正しい理解が進むよう普及・啓発を行い、肝炎ウイルス検査の受検を促進しています。その日本肝炎デーに因んで、啓発の一環として沖縄県の肝疾患の実情を共有させていただき、この機会にご一考いただければ幸いです。

<肝硬変の成因について>

さて図1は2018年での肝硬変の成因を示したグラフです¹⁾。沖縄県は全国に比べ生活習慣関連の成因、特にアルコールが多く、肝炎ウイルスは少ないのが特徴です。日本肝臓学会総会では約5年毎に全国各施設での肝硬変の成因調査を実施しています。2023年6月の第59回日本学会総会（原稿執筆時は開催前）では2018年～2021年のデータをまとめており図2は沖縄県のデータ（琉球大学病院、浦添総合病院、那覇市立病院、ハートライフ病院）、図3は沖

縄県における肝硬変成因の経時的変遷を示しています。有効な各種抗ウイルス薬のおかげでウイルス性は減少傾向が続いていますが、アルコールとNASHは依然として多いためです。

また、肝硬変診断時年齢は平均62歳ですが、アルコール性は他の成因と比べ10歳ほど若く（表1）、背景にある「若い世代からのアルコール依存になるリスクの高い飲酒習慣」が要因と考えられます。腹水や黄疸を主訴に初めて医療機関を受診し断酒できずに肝不全で死亡する患者、断酒できても肝機能回復せずに死亡する患者など県医師会会員の先生方も少なからず診療された経験があることと思います。

患者本人、ご家族は「このくらいの量は大丈夫と思っていた。ここまで悪くなっているとは思ってもなかった。」と言われ、もう少し早く対策していたら助かった命かもしれないと思うことも少なくなく、適正飲酒（1日平均純アルコール20g）、肝臓病についての知識が一般市民に十分に浸透していないことを痛感します。

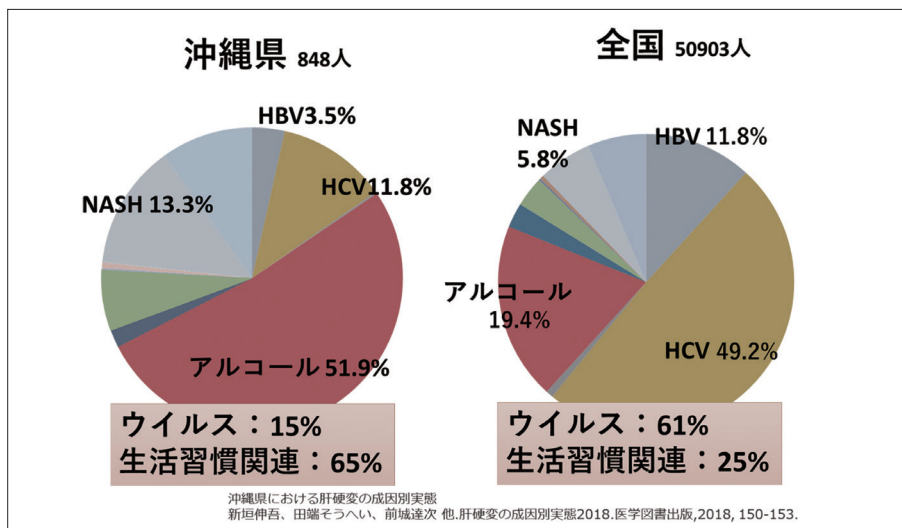


図1 肝硬変の成因 2018 第54回日本肝臓学会総

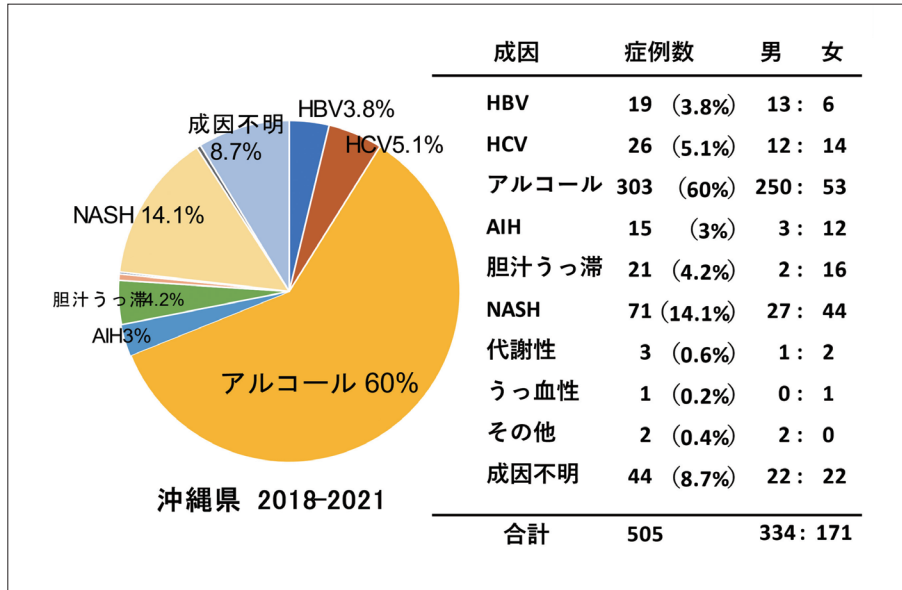


図2 沖縄県における肝硬変成因 (2018-2021) 第59回日本肝臓学会総会 2023

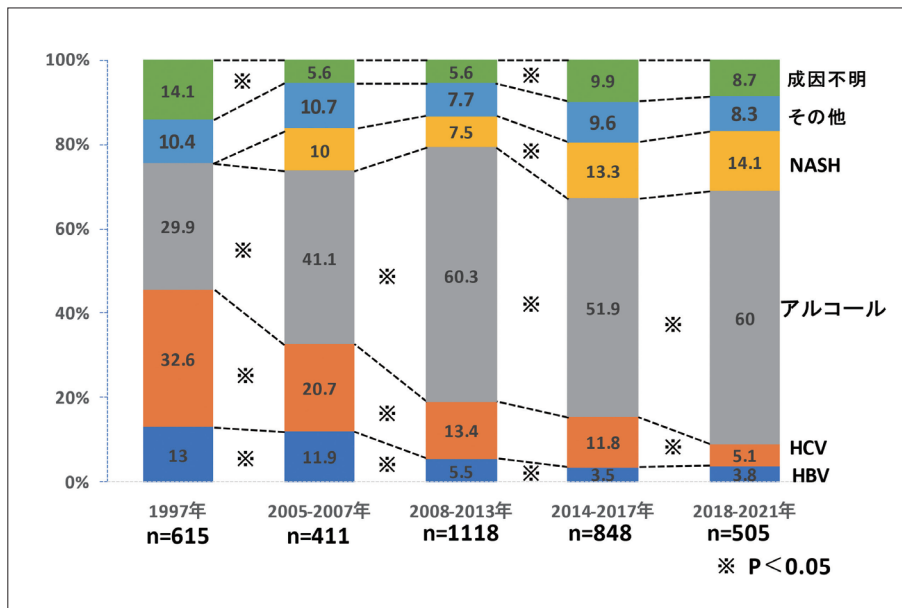


図3 沖縄県における肝硬変成因の経時的変遷 第59回日本肝臓学会総会 2023

<アルコール性肝疾患の診療、啓発について>

琉球大学病院は2009年より沖縄県の肝疾患診療連携拠点病院に指定され肝硬変や肝がん患者を減らすことを目標に市民公開講座やテレビ・ラジオなどを通して肝疾患に関する啓発を続けてきましたが、アルコールによる健康障害をきたしている当事者自身やその家族に情報が十分に行き届いておらず、アルコールによる健康障害の重大さ、危険性を理解しないまま飲酒

を継続し、肝疾患が進行していることが課題と考えております。そこで、情報提供する我々側から実際に地域へ出向いて地元の保健師とともに相談会や当事者へ腹部超音波検査を実施するなど、啓発の方法も工夫しながら活動を継続したいと思います。

また、アルコール性肝疾患患者の多くが併存しているアルコール依存症については精神科との病診連携が重要です。アルコール依存であっ

成 因	年 齢 (歳)	男	女
HBV	67.1 (13.5)	63.9(11.3)	74.2(16.2)
HCV	70.0 (11.7)	68.2(12.8)	71.8(10.8)
アルコール	57.1 * (12.8)	58.4(12.4)	50.7(12.5)
NASH	70.3 (11.9)	68.3(13.9)	71.4(10.3)
PBC	67.0 (12.9)	66.4(12.6)	72(19.8)
AIH	67.6 (15.3)	64.7(16.3)	68.3(15.7)
成 因 不 明	73.1 (15.3)	69.1(16.0)	77.1(13.8)
計	61.7 (14.9)	60.3(13.9)	64.4(16.3)

* 他の全ての群と有意差あり

※ P<0.05

表 1 肝硬変診断時年齢 平均値 (標準偏差) 第 59 回日本肝臓学会総会 2023

でも当事者自身が認識していない、またはそれを否定して実際に精神科に通院できていない方が多いので、AUDIT スコアなど客観的な評価を患者、家族と共有し適切に精神科へ繋げることを心がけるように診療しております。

沖縄県としてもアルコール健康障害対策基本法に基づき、平成 30 年 3 月に「アルコール健康障害対策推進計画」が策定され令和 5 年 3 月から第 2 期として県をあげての対策も継続されており²⁾、アルコール健康障害の他にも飲酒運転やそれにかかわる人身事故、泥酔者の路上寝こみ、家庭内暴力などを減らすことにもつながる重要な対策と考えます。

将来の沖縄のアルコール性肝疾患の死亡率を少しでも下げられるように肝臓内科医としての取り組みを続けていきたいと思ひます。

＜肝炎ウイルスについて＞

沖縄の肝疾患の話題はどうしてもアルコールのことが多くなりますが、いま一度肝炎ウイルスについても考えていただければと思ひます。

平成 30 年度の診療報酬改定において「手術前の検査として肝炎ウイルス関連検査を行った場合は、検査の結果が陰性であった場合も含め、

検査の結果について患者に適切な説明を行い文書により提供する」旨が規定されております。

以前に術前検査を受けているのに陰性か陽性が結果を分かっていない方が多く、中にはウイルス陽性であっても説明されず治療に結び付いていない方もいらっしゃるかもしれません。読者の先生方においては術前肝炎ウイルス検査結果の説明について一度再確認いただければと思ひます。

＜さいごに＞

沖縄県の肝疾患はアルコール、脂肪肝の生活習慣関連が多く、読者の先生方の日常診療の患者さんの中にもたくさんいらっしゃると思ひます。この機会に適正飲酒の啓発について再考いただき、少しでも肝疾患患者の減少につながれば幸いです。

- 1) 新垣伸吾、田端そうへい、前城達次 他. 肝硬変の成 因別実態 2018. 医学図書出版,2018, 150-153.
- 2) 第 2 期沖縄県アルコール健康障害対策推進計画 沖縄 県保健医療部 地域保健課
pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/seishin/ documents/2ndalplanr0503.pdf